

# 検査の はなし



臨床検査部  
鈴木 美奈子

## 細菌検査について

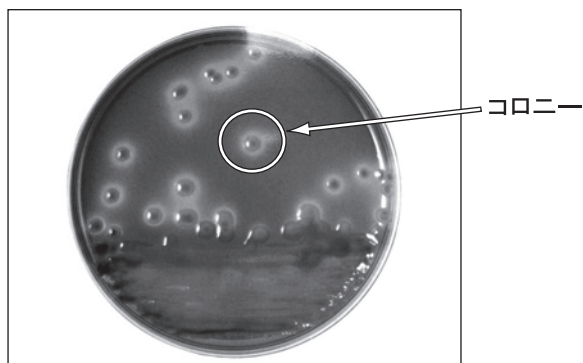
感染症が疑われる患者さまの痰や鼻や喉の粘液などを調べて『感染を起こしているか』、『感染の原因菌は何か』、『その感染症に有効な抗菌薬（抗生物質など）は何か』を見つけ出し、診断や治療に役立つ情報を提供するのが細菌検査です。

まずは提出された痰などの検体に『感染があるのかないのかを見極めること』から始まります。

検体の標本を作って染色をし、標本中に認められる細胞の種類・量・鮮度および形状を観察します。それにより急性炎症像が存在するか、旺盛に繁殖した微生物が認められるかどうかを判断します。

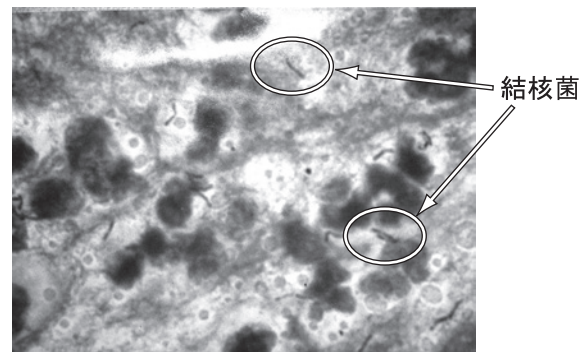
次に菌を発育させて菌種名を決めていきます。

微生物が発育するための条件はその微生物が持つ特性によって異なります。そのため、最もふさわしい方法の条件（時間・温度）や培地（寒天を用います）を選択していきます。そして培地に発育したコロニー（菌の集落）の特徴から菌種を推定し、病気の原因となる菌を探します。



口の中には、健康者にも見られる常在菌叢じんそうと言われる種々の微生物が生育しています。これらは通常は感染を起こさない正常の細菌群として存在します。しか

し、体の抵抗力が落ちている時に、唾液に含まれる細菌や食物が気管や気管支に入ると、感染が成立して「誤嚥性肺炎」を発症してしまいます。特にお年寄りに多く見られます。また結核は昔の病気ではなく、若い人にも多く見られます。



検査では必要に応じてさらに、治療に有効と思われる抗菌薬が何か調べます。

このように細菌検査の仕事は熟練を要する手仕事の分、検体を受け取ってから結果報告まで2日～5日程を要します。

最近では、インフルエンザウイルス・肺炎球菌等のような『迅速診断キット』が開発され、感染症の診断や治療に役立てられています。

